

⑱漁協青年部・女性部の活動状況について

(関連事業：沿岸漁業担い手活動支援事業)

東日本大震災以降、沿岸地域では漁船・漁具及び養殖施等の復旧が進み、各地域では漁協青年部（研究会）及び女性部による活動が活発に行われてきました。しかしながら、震災から10年目となる令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、総会等の会合も書面開催とせざるを得ないなど大幅に活動が制限されることとなりました。多くの青年部・女性部が十分に活動できない状況ではありましたが、今回は各地区の取組の中から中部地区におけるナマコ資源の維持・増大に向けた取組を御紹介します。

所属団体名：宮城県漁業協同組合谷川支所青年部，石巻市東部支所研究会
研究・実践取組課題選定の動機

本県の重要水産資源の一つであるナマコの資源の持続的利用と資源の意識醸成を図るため、県漁協谷川支所青年部及び石巻市東部支所研究会が人工種苗生産や中間育成、種苗放流など、資源の維持・増大に向けた取組を展開しています。

谷川支所青年部の研究・実践活動状況及び成果

イ 採卵・幼生管理

6月19日に浜にあるテント式作業場でナマコの採卵を行い、確保した幼生約1,800千個体はパンライト水槽500L×2基と同200L×4基に収容しました。その後、毎日、青年部員が輪番制で市販の濃縮餌料を給餌する等の飼育管理を行いました。

ロ 採苗・中間育成

採卵から15日程度経過し、幼生が着底期を迎えた時期に水槽に採苗器（タマネギ袋に遮光幕を無造作に入れたもの）を投入しました（採苗）。その後も飼育管理を1か月間続けた後、肉眼（1～2mmサイズ）で確認できた稚ナマコ59,700個体を、採苗器のまま鮫浦湾に沖出ししました（中間育成）。

ハ 放流

6か月間海上で中間育成し、採苗器に残っていた稚ナマコ371個体（平均20mm）を、2月26日に地先海面に放流しました。

(参考) 令和2年度ナマコ種苗生産実績

	採卵		放流			備考
	時期	収容数量 (千個体)	生産数量 (個体)	放流数量 (個体)	生残率(%)	
谷川	R2.6.19	1,800	59,700	371	0.6%	H30から試験
石巻市東部	R2.6.8	1,360	3,000	76	2.5%	H30から試験

ニ 今後の課題や問題点

生産規模の拡大に伴う餌料費の増加や歩留りの向上、沖出し後の減耗対策が課題となっており、今後は植物プランクトンの培養や生残率向上のための試験区を設定するなど効率的な方法を検討していきます。

重点施策Ⅲ－令和２年度の主な取組－

【実施状況写真】



採卵誘発の状況（6／19） 稚ナマコ沖出し作業（9／2） 放流作業（2／26）

（東部地方振興事務所水産漁港部，水産業振興課）